

平成 26 年度

広島大学
スポーツ科学センター

年報

広島大学スポーツ科学センター

はじめに

平成 23 年 11 月 9 日に提示された「スポーツ科学センターの改善案」をふまえた 3 年目の取り組みとなった平成 26 年度は、教育、研究、課外活動、社会連携の 4 部門それぞれにおいて、改善案に示された内容を反映させた取り組みを行ってきました。

まず教育部門では、教養教育の全学体制での実施という基本方針に基づき、体育系教員による安定した実施体制を築いてきました。また、受講する学生のニーズを反映したスポーツ種目の開設や実施種目ごとに定員を設けることで、授業としての質をある程度確保することに努めてきました。その結果、教養教育「健康スポーツ科目」の報告にあるように、授業評価として受講した学生から高い満足度の評価を得ることができました。

研究部門では、スポーツ科学における最前線の研究成果を学ぶ機会としてスポーツ科学セミナーを充実させました。また、本学教職員を対象としたスポーツ教室を行うと共に、教室への参加前後における気分の調査を昨年度に引き続き実施しました。その結果、仕事を終えた後に参加するスポーツ活動が教職員の気分の変化に良い影響を及ぼすことが明らかとなりました。教職員の福利厚生の一環として、教職員へのスポーツへの参加機会の提供が必要と思われます。さらに、学内外のアスリートの心理的サポートを行うことを目的として「スポーツメンタルトレーニング相談室」を開設しました。今後の活動が期待されます。

課外活動部門では、スポーツ系課外活動団体が実施する地域貢献事業への補助として、前年度より 1 つ多い 8 事業を実施しました。その結果、東広島市を中心とした約 700 名の小・中学生の参加を得ることができました。また、体育会主催の「スポーツリーダーズセミナー」において、セミナーの内容や講師派遣について相談・協力し、「ハラスメントのないキャンパスライフ」やトレーニングや栄養学などクラブの幹部として必要な知識や心構えを学ぶ講演・講習を提供しました。

社会連携部門では、市民を対象とした公開講座を 2 講座行い、参加者の多くから高い満足度を得ました。さらに、研究員が関与している学外団体主催の事業に対しても積極的に支援し、あわせて 9 事業を実施しました。研究員の多くの方が、大学における教育・研究と並行して、社会貢献活動に積極的に参加していることがうかがえます。

以上のように、平成 26 年度もそれぞれの部門の充実を図ってきました。今後は、各事業の成果についての検証も見据え、各事業のさらなる充実を図っていきたい。

平成 27 年 3 月 27 日

スポーツ科学センター長
東 川 安 雄

目 次

はじめに	1
《平成 26 年度活動報告》	
I. 平成 26 年度活動の概要	3
II. 教育部門	
1. 教養教育「健康スポーツ科目」	5
2. 健康スポーツ科目の FD 研修会	10
III. 研究部門	
1. スポーツ科学セミナー	11
2. 健康スポーツ科目及び教職員スポーツ教室への参加による気分の変化	14
3. 教職員スポーツ教室	15
4. スポーツメンタルトレーニング相談室の開設	17
IV. 課外活動部門	
1. 西体育館トレーニングルーム非常勤職員の推薦	18
2. 体育会主催「スポーツリーダーズセミナー」への協力	19
3. スポーツ系課外活動団体が実施する地域貢献事業	20
(1) 体育会硬式庭球部主催「広大オープンテニス大会」	20
(2) 体育会柔道部主催「柔道教室」	21
(3) 体育会サッカー部・女子サッカー部主催「サッカー教室」	22
(4) 体育会陸上競技部主催「小学生陸上競技教室」	23
(5) 体育会柔道部主催「第 8 回フェニックス杯柔道大会」	24
(6) 体育会バレーボール部主催「第 18 回もみじ杯バレーボール大会」	25
(7) 体育会バスケットボール部主催「フェニックスバスケットボールクリニック」	26
(8) 体育会フットサル部主催「フットサル教室」	27
V. 社会連携部門	
1. 公開講座「スポーツを通じた健康学セミナー」	28
2. 公開講座「家でもできる健康体操」	31
3. 日本ランニング学会主催「中高年のランニング教室」	35
4. 広島陸上競技協会主催「小学生陸上競技出前講座」	36
5. 日本陸上競技連盟主催「JAAF ジュニアコーチ講習会」	37
《諸会議》	
I. スポーツ科学センター運営委員会・教員会・部門長会議	38
《組織》	
I. スポーツ科学センター研究員	38

《平成 26 年度活動報告》

I. 平成 26 年度活動の概要

部門	事業	世話人	参加者
(1) 教育 部門長： 磨井祥夫	①教養教育「健康スポーツ科学」	磨井祥夫	スポーツ実習： 3,156 (3,074) 名 健康スポーツ科学 1,174 (1,246) 名
	②健康スポーツ科目の FD 研修会		延べ 17 (14) 名
(2) 研究 部門長： 関矢寛史	①スポーツ科学セミナー	関矢寛史	87 (80) 名
	②健康スポーツ科目及び教職員スポーツ教室への参加による気分の変化	関矢寛史	
	③教職員テニス教室	関矢寛史	44 (60) 名
	④教職員ウォーキング教室	関矢寛史	20 (27) 名
	⑤スポーツメンタルトレーニング相談室の開設	関矢寛史	延べ 10 名
(3) 課外 活動 部門長： 出口達也	①西体育館トレーニングルーム非常勤職員の推薦	東川安雄	17 (21) 名
	②体育会主催「スポーツリーダーズセミナー」への協力	東川安雄	107 (120) 名
	③スポーツ系課外活動団体が実施する地域貢献事業		
	ア) 体育会硬式庭球部主催「廣大オープンテニス大会」	関矢寛史	125 (146) 名
	イ) 体育会柔道部主催「柔道教室」	出口達也	70
	ウ) 体育会サッカー部・女子サッカー部主催「サッカー教室」	沖原 謙	105 (100) 名
	エ) 体育会陸上競技部主催「小学生陸上教室」	東川安雄	30 (30) 名
	オ) 体育会柔道部主催「第 8 回フェニックス杯柔道大会」	出口達也	300 (350) 名
	カ) 体育会バレーボール部主催「第 18 回もみじ杯バレーボール大会」	橋原孝博	25 (24) チーム
キ) 体育会バスケットボール部主催「フェニックスバスケットボールクリニック」	上田毅	33 (80) 名	
ク) 体育会フットサル部主催「フットサル教室」	木庭康樹	5 名	
(4) 社会 連携 部門長： 上田毅	①公開講座「スポーツを通じた健康科学セミナー」	長谷川博	延べ 150 (180) 名
	②公開講座「家でもできる健康体操」	東川安雄	185 (64) 名
	③日本ランニング学会主催「中高年のランニング教室」	東川安雄 和田正信	65 (69) 名
	⑥広島陸上競技協会主催「小学生陸上競技出前講座」	東川安雄	2,632 (2,600) 名
	⑦広島県教員団バレーボール部主催「平成 26 年	橋原孝博	

	度広島県バレーボール教室」 ⑧日本陸連「JAAF ジュニアコーチ講習会」 ⑨広島県教育委員会「柔道指導者実践講座」 ⑩広島市教育委員会「中学校保健体育授業改善 研修」 ⑪広島市教育委員会「中学校武道指導者研修会」 ⑫東広島市教育委員会「夢・感動推進事業」 ⑬スポーツメンタルトレーニング基礎セミナー	東川安雄 出口達也 出口達也 出口達也 出口達也 関矢寛史	24 (45) 名
(5) その他	・年次報告書の作成	東川安雄	

() 内数値は平成 25 年度。

Ⅱ. 教育部門

1. 教養教育「健康スポーツ科目」

1.1 授業の目標

体力・健康づくりのための科学的理論を修得するとともに、自己の特性やスポーツの技能水準に適合したスポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを親しむ態度・マナーや協調性等の社会的スキルを習得することを目標とする。

1.2 授業の内容

生涯にわたり健康を考える科目として、実習科目と講義科目をまとめて一つの科目区分をして提供する。実習科目には「スポーツ実習 A」、「スポーツ実習 B」（障害のある学生及び体力に自信のない学生対象）が、講義科目には「健康スポーツ科学」がある。

1.3 カリキュラムの概要

(1) スポーツ実習・健康スポーツ科学ともに、学部学科などの指定時限枠はない。学生はどの時限においても履修することができる。

(2) スポーツ実習では、安全面、施設・設備、授業効率等を考慮し、受講学生数の上限を設けている。
スポーツ実習 A：バドミントン 54 名、テニス 48 名、バレーボール 40 名、卓球 48 名、バスケットボール 42 名、ソフトボール 40 名、サッカー 39 名、オリエンテーリング 50 名、スクーバ 40 名、気功体操 40 名、ジョギング 20 名、フットサル 30 名、バウンドテニス 48 名、トレーニング 20 名、カヌー&野外実習（集中授業）50 名、スキー実習（集中授業）40 名。

スポーツ実習 B：10 名

(3) スポーツ実習の目的

スポーツ実習 A では、基礎的な体力に加え、スポーツの基本的スキルやルールの習得、さらにゲームでの適応力を身につける。個々のスポーツの基礎的な技術、作戦、ルールを学習し、生涯にわたり年齢・体力に応じた運動を行うことができる素地を養うことを目的とする。また、マナーや協調性などの社会的スキルを身につけることを目的とする。

スポーツ実習 B では、身体障害者・有疾患学生を対象とし、個人処方を基礎にして運動・スポーツを学ぶ。身体的障害・疾病あるいはその他の理由により、長期にわたり他のスポーツ実習科目を受講することが困難である学生及び体力に自信のない学生を対象とし、個人に適したスポーツを選択し実施する。また、障害に応じて、リハビリテーションを目的とした筋力トレーニングを行うこともある。

(4) 開講コマ数と受講者数

スポーツ実習

前期：スポーツ実習 A 46 コマ，スポーツ実習 B 1 コマ，受講者数 1,635 名
後期：スポーツ実習 A 47 コマ，スポーツ実習 B 1 コマ，受講者数 1,521 名
健康スポーツ科学
前期：6 コマ，受講者数 766 名
後期：7 コマ，受講者数 408 名

1.4 スポーツ実習 A の集中授業の内容

(1) カヌー&野外実習（前期）

日程：2014 年 8 月 11 日（月）～8 月 12 日（火）

参加費：6,000 円

場所：広島大学東広島キャンパス（西体育館・プール・陸上競技場）

担当教員：総合科学研究科教員 4 名

（和田 正信，磨井 祥夫，長谷川 博，木庭 康樹，TA：2 名）

受講者：男子（24 名），女子（21 名），合計（45 名）

内容：例年どおり国立大洲青少年交流の家に宿泊しカヌーなどを行う予定であったが，台風の影響により中止とした。そのため，広島大学内での代替プログラムに変更した。

プログラムは，バレーボール，オリエンテーリング，水球，野外炊飯とした。それぞれのプログラム個別のレポートおよび総括レポートを課した。また，最後に簡単なアンケートを実施した。



(2) スキー実習（後期）

日程：2015 年 2 月 17 日（火）～2 月 21 日（土）（4 泊 5 日）

場所：北海道ルスツスキー場

参加費：98,000 円（レンタル代は別途）

宿舎：ルスツリゾートホテル

〒048-1711 北海道虻田郡留寿都村字泉川 13 番地

担当教員：総合科学研究科教員 5 名

（和田 正信，船瀬 広三，関矢 寛史，長谷川 博，木庭 康樹）

受講者：男子（14 名），女子（3 名），合計（17 名）

受講資格：スキー初心者から上級者までのあらゆるレベルの者

*実習後，受講者に簡単なアンケート調査を行った。



1.5 授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートが全学で実施されている。平成 26 年度の健康スポーツ科目のアンケート結果は次のとおりであった。

(1) スポーツ実習

授業評価アンケート（実験・実習用）は、受講した学生自身に関する質問として、Q1 出席，Q2 積極的参加，Q3 時間外学習があり，教育内容等に関する質問として，Q4 シラバス，Q5 説明，Q6 補助教材，Q7 安全性，Q8 質問対応，Q9 知識技能態度，Q10 知的刺激があり，総合評価に関する質問として，Q11 満足度がある。それぞれの項目の回答は 5 つの選択肢からなり，1～5 点の評価点に換算される。

スポーツ実習の授業評価アンケート対象者数は，前期後期合わせて 3,135 名であり，そのうち 1,420 名が回答した。回答率は 45%であった。

学生自身に関する質問項目の評価点平均は，Q1 出席：4.79 点（4.81 点），Q2 積極的参加：4.20 点（4.13 点），Q3 時間外学習：1.40 点（2.01 点）であった。（ ）内に，平成 26 年度の教養教育授業のうち実験と実習を合わせた平均評価点を示して，全体との比較をしたところ，スポーツ実習は，授業に積極的に参加したが，予習・復習などの時間外学習が少ない傾向がみられた。

教育内容等に関する質問項目の評価点平均は，Q4 シラバス：4.07 点（4.15 点），Q5 説明：4.21 点（4.07 点），Q6 補助教材：3.67 点（3.78 点），Q7 安全性：4.38 点（4.32 点），Q8 質問対応：4.08 点（4.11 点），Q9 知識技能態度：4.27 点（4.20 点），Q10 知的刺激：4.27 点（4.20 点）であり，補助教材・資料・マニュアルの得点は低いが，分かり易い説明の得点は高い傾向がみられた。

総合評価である満足度の得点は高い傾向にあった。

(2) 健康スポーツ科学

授業評価アンケート（講義用）は，受講した学生自身に関する質問は，実験・実習用のアンケートと同じであり，教育内容等に関する質問は，実験・実習用にある安全性の項目が除外されており，全部で 10 個の質問項目となっている。

健康スポーツ科学の授業評価アンケート対象者数は，前期後期合わせて 1,174 名であり，そのうち 470 名が回答した。回答率は 40%であった。

学生自身に関する質問項目の評価点平均は，Q1 出席：4.72 点（4.63 点），Q2 積極的参加：3.43 点（3.29 点），Q3 時間外学習：1.76 点（2.00 点）であった。（ ）内に，平成 26 年度の教養教育授業のうち講義科目の平均評価点を示して，全体との比較をすると，健康スポーツ科学は，受講生は積極的に授業に参加していたが，予習・復習などの時間外学習が少ない傾向がみられた。

教育内容等に関する質問項目の評価点平均は、Q4 シラバス：4.06 点（3.98 点）、Q5 説明：4.06 点（3.98 点）、Q6 補助教材：4.16 点（3.96 点）、Q7 質問対応：3.85 点（3.87 点）、Q8 知識：4.16 点（3.97 点）、Q9 知的刺激：3.84 点（3.71 点）であった。健康スポーツ科学の特徴として、教員の説明が分かり易く、教材・資料が授業内容の理解に役立ち、知識が身に付き、知的刺激をうけたことがあげられる。

総合評価に関する評価点平均は Q10 満足度：4.10 点（3.91 点）であり、満足度は高い傾向にあった。

教育内容に関する質問では、Q4 から Q9 までの 6 項目中 5 項目で講義の全体平均評価点を上回っていたこと、また総合的な満足度が高かったことから、学生は、健康スポーツ科学を全体的に高く評価していることがわかった。

2. 健康スポーツ科目のFD研修会

教育部門の活動として、健康スポーツ科目担当教員によるFD研修会を2回開催した。

2.1 第1回健康スポーツ科目FD研修会

日 時：平成26年5月27日（水）14：30～16：00

場 所：総合科学部A123

テーマ：健康スポーツ科目の成績評価

講 師：磨井 祥夫（広島大学大学院総合科学研究科）

参加者：10名

概 要：

教養教育科目の成績分布について報告があり、質疑応答を行った。

教養教育科目の成績評価については、平成25年度から「教養教育科目における成績評価について（ガイドライン）」が適用されている。ガイドラインでは、「秀」を目安として15%以内となるよう努めるとされており、30%を超えるなど著しい偏りがある場合は、説明が求められると定められている。「秀」の割合についての適用対象として、20人以下の授業と実習授業は除外することになっているので、健康スポーツ科目では「健康スポーツ科学」だけが対象であり、「スポーツ実習」は対象外である。本FDでは、平成23年度から平成25年度までの健康スポーツ科目の成績評価の調査結果を検討することにより、今後の各担当教員の成績評価のための参考資料とした。

平成25年度の健康スポーツ科目の成績分布は、表1のようになった。

スポーツ実習では、S評価が52%であった。スポーツ実習はガイドラインの対象外であることと、実習授業のため良い成績評価となったと考えられる。スポーツ実習の成績分布は、平成23年度からほとんど変化がなく安定していることも示された。

健康スポーツ科学は、S評価が15%となり、ガイドラインで示された目安を満足していた。S評価が30%を越えたクラスが1クラスあったが、そのクラスは受講数が30名に満たないクラスであった。少人数クラスでは学習効果が高くなるためと推察される。

表1 成績分布（平成25年度に開講した健康スポーツ科目）

授業科目	開講コマ数	履修数	成績評価の割合					
			S	A	B	C	D	Z
スポーツ実習A・B	95コマ	3,074名	52%	29%	12%	4%	2%	2%
健康スポーツ科学	13コマ	1,264名	15%	29%	25%	19%	7%	6%

（履修数は、S～Zの評価をした学生数とし、単位不要などの学生を除いた）

2.2 第2回健康スポーツ科目FD研修会

日時：平成26年7月31日（木）13:00～13:30

場所：総合科学部A123

テーマ：第62回中国・四国地区大学教育研究会保健体育分科会報告（島根大学）

講師：木庭 康樹（広島大学大学院総合科学研究科）

参加者：7名

概要：

6月14日に島根大学で開催された第62回中国・四国地区大学教育研究会における保健体育分科会の内容について報告があり、質疑応答を行った。

保健体育分科会では、まず、島根大学の原丈貴氏が「中国・四国地区における大学体育の現状と課題」というテーマで講演を行った。内容は、島根大学が2014年に実施した44大学の教養教育における保健体育関連授業の現状調査報告であり、加えて「授業形態の最近の傾向としてEラーニングが増えてきている」という結果や「教職科目としてのみの開講を問題視すべき」「島根大学の現状として学生から実習が多い方が良い」「学生補助の確保」等の問題点が指摘された。

なお、講演後、以下のような質疑応答がなされた。

- Q：成績評価の方法を具体的に知りたい A：到達目標の「分析」と「実践状況調査とレポート」に独自性がある
- Q：授業負担度（常勤と非常勤のバランスなど）について知りたい A：島根県内に大学が少ないため、常勤と非常勤で半分ずつである
- Q：各授業の受講者数は A：実習は平均50名、スキーは30名。少ない授業では、バレーボール0名、バスケットボール4～5名もある。
- Q：講義「健康・スポーツ科学概論」のテーマは A：「ライフスタイル」がキーワード
- Q：免許法に対応している講義「健康・スポーツ科学概論」に学生が集中してしまわないように、免許法上は実習2単位も可能であるから、別のカテゴリで開講すれば、実技の受講者も増えるのでは？

次に、全体討議では、以下についての議論および報告が行われた。

岡山大学：スポーツ実習の2単位化、リフレクションノート（Web）、Eラーニング、60分制の導入

広島大学：教養教育改革によるスポーツ実習の必修化、クォーター制の導入

高知大学：教養部が教育学部に吸収され教養の負担軽減、SAの採用、SA研修の導入

鳥取大学：選択スポーツ種目を増やした、地域的に雨天が多く屋内種目を増やした

広島修道大学：評価の点数化の徹底

愛媛大学：授業内容の統一、ICTの導入（iPadを利用し他の教員に授業風景を見せる等）、情報の共有、教職のためのスポーツ実習を別枠で開講

Ⅲ. 研究部門

1. スポーツ科学セミナー

(1) 第1回

主 催：スポーツ科学センター

日 時：平成26年7月18日（金） 18：00～19：30

場 所：広島大学学生会館2階レセプションホール

講 師：ロビンス森山尚子（ジャイロキネシス認定マスタートレーナー）

テーマ：ジャイロキネシス

世話人：関矢寛史（スポーツ科学センター研究員）

参加者：60名

概 要：

ジャイロキネシスは、バレエダンサーだったジュリオ・ホバスが、自らの怪我や慢性の痛みを克服するために生み出したエクササイズです。ヨガ、ダンス、体操、太極拳、水などの動きをベースとし、円・螺旋を描くような曲線的な動きと呼吸を融合させる事によって、身体を全体から活性化させるメソッドです。そのため、動的なヨガとも言われています。現在、欧米では多くのセレブ、ダンサー、役者、アスリートが、より効果的に身体を動かし、怪我などから身体を守るために、ジャイロキネシスを取り入れています。今回のワークショップでは、ニューヨーク在住でジャイロキネシス認定マスタートレーナーの森山氏にジャイロキネシスの基本を紹介していただき、学内外からの参加者の身体と心をほぐしていただきました。



(2) 第2回

主 催：スポーツ科学センター

日 時：平成26年9月26日（金） 13:00～15:00

場 所：大学院総合科学研究科 第一会議室

世話人：長谷川 博（スポーツ科学センター研究員）

参加者：15名

第1部

講師：須藤 みず紀

（公財）明治安田厚生事業団 体力医学研究所 研究員

テーマ：2型糖尿病骨格筋におけるエキセントリック運動の有効性

概要：糖尿病の発症は筋萎縮などの合併症を引き起こすが、筋量維持を目的とした運動プログラムを支持する基礎的なエビデンスが少ないのが現状である。本セミナーでは、糖尿病ラットを対象としたエキセントリック運動の有効性について検討した研究成果が紹介された。参加者からは、エキセントリック運動に用いた実験方法や糖尿病発症モデル動物の可能性、ヒトへの応用例などについての質問があった。

第2部

講師：安藤 創一

電気通信大学情報理工学研究科 准教授

テーマ：様々な環境下での運動が認知機能に及ぼす影響

概要：近年、運動がヒトの認知機能を向上させることが広く知られている。本セミナーでは、低酸素環境・高温環境や朝食摂取の有無が運動中の認知機能に及ぼす影響について検討した研究成果が紹介された。参加者からは、一過性の運動がどのようにヒトの認知機能に影響を及ぼすのか、実験に用いた認知機能テストの詳細、脳血行動態の評価、などに関する質問があった。



講 師
須藤みず紀先生



講 師
安藤創一先生

(3) 第3回

主 催：スポーツ科学センター

日 時：平成26年11月7日（金） 15：30～17：00

場 所：大学院教育学研究科 第一会議室

講 師：山辺 芳（国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部 研究員）

テーマ：国立スポーツ科学センターにおける競技力向上を目的とした支援・研究活動
ースキージャンプ種目を例としてー

世話人：加藤 荘志・大塚 道太（いずれもスポーツ科学センター研究員）

参加者：14名

概 要：

まず講師が所属する国立スポーツ科学センター（Japan Institute of Sports Sciences: JISS）の組織構成とその業務内容について、映像と配布資料によって紹介された。

J I S Sは、事務組織である西が丘管理部，診療・リハビリを専門とするメディカルセンター，そして生理学・心理学・バイオメカニクスなどの研究知見により競技力向上をサポートするスポーツ科学研究部，の3部門から構成されている。

続いて，講師が担当するJ I S S風洞実験施設の概要と，この施設を用いたスキー・ジャンプ種目に対するサポート業務の実際が紹介された．さらに，スキー・ジャンプの飛距離に影響を与える諸要因について，主に流体力学に基づいた講師の研究成果が詳説された。

参加者からは，スキー・ジャンプ種目の実際と風洞実験施設による研究成果，J I S Sの施設利用とサポート業務，J I S Sに至るまでのキャリアパス，（講師が以前担当していた）文部科学省のマルチサポート事業，J I S Sにおけるインターンシップ，J I S Sの競技サポートにおける成功例，などに関する質問があった。



講 師
山辺 芳先生

講演の様子

2. 健康スポーツ科目及び教職員スポーツ教室への参加による気分の変化

研究の目的

広島大学教職員スポーツ教室への参加が気分の変化に及ぼす影響を調べる。

方法

教職員テニス教室と教職員ノルディックウォーク教室への参加前後の気分を質問紙によって調べた。質問紙は「日本語版 UWIST 気分チェックリスト (JUMACL)」(JUMACL 研究会作成, トーヨーフィジカル, 2005 年)を用いた。この質問紙は、「緊張している」「穏やかである(逆転項目)」「不安である」などの 10 項目で測る緊張覚醒度と「エネルギーである」「頭がぼんやりしている(逆転項目)」「やる気がある」などの 10 項目で測るエネルギー覚醒度を弁別し、従来の覚醒水準をネガティブ要因とポジティブ要因に分けて測定するものである。

調査対象は、教職員テニス教室(前期後期, 各 1 クラス)の参加者計 37 名, 教職員ノルディックウォーク教室の参加者 14 名であった。

結果と考察

緊張覚醒度とエネルギー覚醒度のそれぞれについて活動形式(2)×活動前後(2)の 2 要因分散分析を行った。その結果, 教職員テニス教室と教職員ノルディックウォーク教室の参加者においては, 活動形式に関わらず活動前後でエネルギー覚醒度が有意に増加することが明らかとなった ($p<.01$)。また, 活動前後に関わらずテニス教室参加者がノルディックウォーク参加者に比べて有意に高いエネルギー覚醒度を示した ($p<.05$)。活動形式の影響は, 参加者の平均年齢がテニスにおいて低かったことが原因と考えられるが, 活動形式に関わらずエネルギーである, 生き生きしている, 活動的であるなどの状態を示すエネルギー覚醒度が活動前後で増加したことから, 仕事を終えた後に参加するスポーツ活動が教職員の気分の変化に良い影響を及ぼすことが明らかとなった。また両活動の前後における緊張覚醒の変化は見られなかった。教職員の心理的・身体的健康増進のためにスポーツ教室などの更なる提供が効果的であることから教職員の福利厚生の一環として, 教職員へのスポーツへの参加機会の提供が必要であると言える。

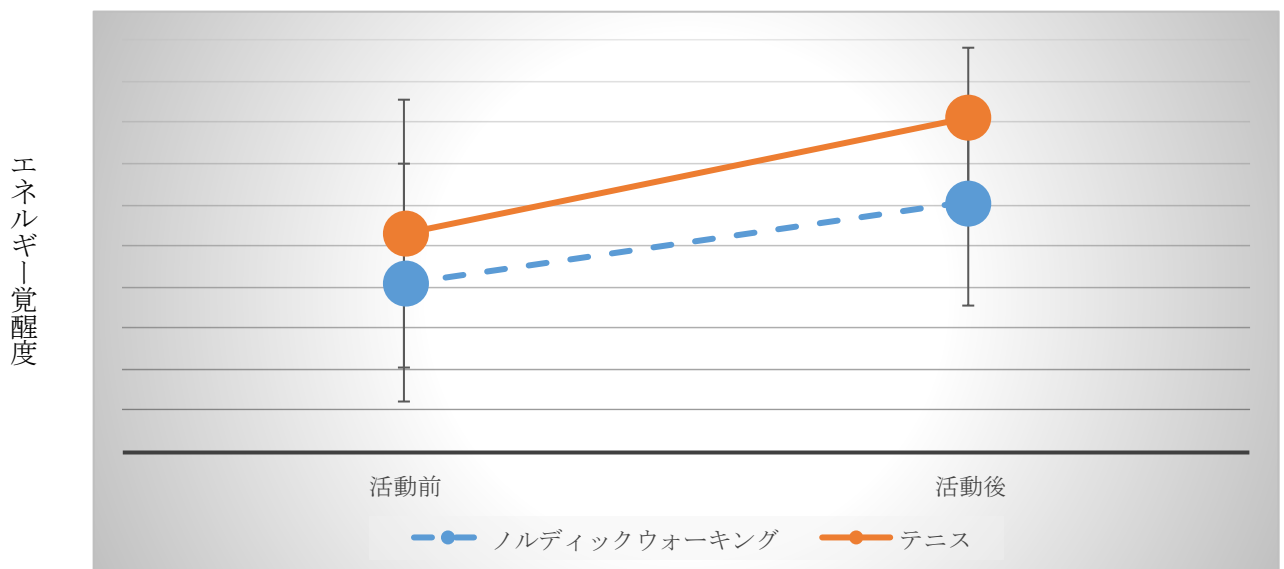


図 1. 活動形式毎の活動前後のエネルギー覚醒の変化

3. 教職員スポーツ教室

(2) 教職員テニス教室

主 催：スポーツ科学センター，広島大学体育会硬式庭球部

日 時：

前期 2014 年 5/19 (月) ～7/7 (月) の毎週月曜 19 時～20 時 30 分 (全 8 回)

後期 2014 年 10/6 (月)，10/20 (月)，10/27 (月)，11/10 (月)，11/17 (月)
の 19 時～20 時 30 分 (全 5 回)

場 所：広島大学第五テニスコート 4 面 (ナイター照明付)

指導者：関矢寛史 (スポーツ科学センター研究員)

広島大学体育会硬式庭球部学生 3 名

参加者：前期 28 名，後期 16 名

参加費：無料

概 要：

前期は参加者の多様な技能レベルに合わせて，初級者，中級者，上級者の 3 つのグループに分けて練習した。初級者グループは主に指導者による球出し練習を行い，教室の後半では対人ラリーや試合も行った。中級者グループは主に基本技能の対人練習を行い，毎回の後半は試合を行った。上級者グループは主に体育会硬式庭球部の学生も交えての対人練習や応用技能や戦術などの練習を行い，毎回後半は試合を行った。

後期は，初心者から初級者までの人で，なおかつ前期に参加していない人のみを受け付けた。球出し練習中心のグループと対人練習中心のグループに分けて練習を行った。

また，前期後期ともに教室終了後には参加者が幹事となり，打ち上げ (懇親会) が開催された。



(2) 教職員ウォーキング教室

主 催：スポーツ科学センター

日時：2014年7月2日（水）～7月30日（水）までの毎週水曜 18：30～19：30（全5回）

場所：東広島キャンパス

参加費：無料

指導者：関矢寛史，加藤荘志，大塚道太（スポーツ科学センター研究員）

TAの大学院生3名

参加者：ヘルシーウォーク 12名，ボディリメイクウォーク 8名

概要：ノルディックウォークとは、2本のポールを使って歩くエクササイズで、上半身の筋肉群を使うため普通のウォーキングに比べて足首や膝への負担は少なく、エネルギー消費量が多いという特徴を持っています。『ヘルシーウォーク』では、「楽だ～ややきつい」と感じるペースで歩きました。『ボディリメイクウォーク』では、速く歩くための専用ポールを使って「ややきつい～きつい」と感じるペースで歩きました。



4. スポーツメンタルトレーニング相談室の開設

場所：広島大学大学院総合科学研究科 A113

日時：平成 27 年 1 月 8 日～ 毎週月曜と木曜の 15 時～, 16 時～, 17 時～

予約連絡先：smt@hiroshima-u.ac.jp

概要：

広島大学ならびに学外のアスリートの心理サポートを行うことを目的として開設した。心理サポートを行う人材としては、日本スポーツ心理学会が認定するスポーツメンタルトレーニング指導士の資格制度がある。当相談室では、この上級指導士の資格を持つ広島大学スポーツ科学センター研究員（関矢寛史）が、資格取得を目指して研究と実践を積んでいる大学院生 5 名とともにメンタルトレーニングの指導を行う。学内の学生アスリート（体育会運動部所属）に対しては主に大学院生たちが関矢のスーパーバイズのもとで指導にあたり、学外のアスリートに対しては主に関矢が担当する。また、精神疾患等の臨床的な問題が相談内容に含まれている場合は、広島大学保健管理センターのメンタルヘルス部門およびカウンセリング部門など適切な相談機関への橋渡しが行えるようにしている。

相談役となる大学院生 5 名は、広島大学のピア・サポート・ルームの研修方法も参考にすると同時に専門書（マーク B. アンダーセン編，辻秀一・布施努訳，実践から学ぶ競技力アップのスポーツカウンセリング，大修館書店，2008 年）を参考図書として事前に研修を積み，さらに日本スポーツメンタルトレーニング指導士会中国四国支部主催のメンタルトレーニング・フォーラムに参加して指導力の向上に努めている。1 月に開設してからすでに学内のアスリート延べ 5 名、学外のアスリート（プロ野球選手，プロテニスプレイヤー，プロレーシングドライバー）延べ 5 名が相談に訪れ，指導が行われている。

広島大学スポーツ科学センター

スポーツメンタルトレーニング相談室

日々部活動に取り組む中で、このような思いはありませんか？

- ✓ 試合で実力を発揮したい！
- ✓ もっと自信をつけたい！
- ✓ 強い心で試合に臨みたい！
- ✓ チーム全体でモチベーションをあげたい！
- ✓ 今よりもっと強いメンタルを身に付けてステップアップしたい！

スポーツ心理学，メンタルトレーニングを学ぶ大学院生が皆さんをサポートします。

サポートの内容

専門の大学院生 5 名が，関矢寛史教授（スポーツメンタルトレーニング上級指導士）のスーパーバイズのもと，個別の相談やメンタルトレーニング指導，または複数名を対象としたチームへのメンタルトレーニングの取り入れ方などをアドバイスします。ぜひ気軽に相談に来てください！

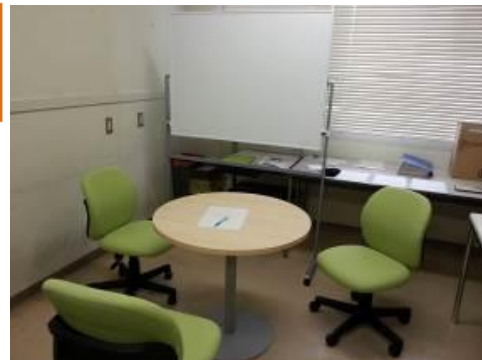
サポート対象者：体育会所属部活動の部員

曜日と時間：毎週月曜日と木曜日の 15 時～, 16 時～, 17 時～

場所：総合科学部 A113

申込：来室希望者は，下記のメール宛先に，必要事項（氏名，性別，所属している部活動名）をお知らせください。

E-mail: smt@hiroshima-u.ac.jp



IV. 課外活動部門

1. 西体育館トレーニングルーム非常勤職員の推薦

平成 26 年度西体育館トレーニングルーム非常勤職員（PA）に以下の 17 名を推薦した。

課外活動団体	人数
柔道部	5
陸上競技部	5
野球部	2
サッカー部	1
バスケットボール部	1
トライアスロン部	1
バレーボール部	1
ラグビー部	1

2. 体育会主催「第60回スポーツリーダーズセミナー」への協力

主催：広島大学体育会

共催：広島大学スポーツ科学センター

日時：平成26年12月14日（土）

場所：学生プラザ及び教育学部講義室、西体育館

講師：岡田 保（株式会社ATHER）

藤田 竜也（株式会社ATHER）

横山美栄子（広島大学ハラスメント相談室）

佐々木文予（広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期）

永澤 貴昭（安田女子大学家政学部）

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：107人

内容：

第1日 開講式

実技 「トレーニング講習」

講演1 「ハラスメントのないキャンパスライフのために」

講演2 「メンタルトレーニング」

講演3 「スポーツ栄養学」

討論会

懇親会

閉講式



実技 岡田先生



講演1 横山先生



講演2 佐々木先生



講演3 永澤先生

3. スポーツ系課外活動団体が実施する地域貢献事業

(1) 体育会硬式庭球部主催「広大オープンテニス大会」

団体名 : 体育会硬式庭球部

事業名 : 第15回広大オープンテニス大会

開催日時 : 平成26年4月12,13,19,20日

開催場所 : 広島大学第4テニスコート、第5テニスコート、西条総合運動場

参加者 : 中高生、学生、社会人

参加人数(相手先) : 125人

参加人数(本学学生) : 30人

内容 : 本大会は試合を通じて地域のテニス力向上と交流を図ることを目的とした大会である。近年の東広島市テニス協会は東広島市から全国で活躍する選手を育成しようという取り組みを行っている。そのため本団体もその一端を担い、本大会を開催するにあたって宣伝を広く行い、それによって東広島市内から数多くの小中高生や大学生、社会人の参加を募ることができた。

また試合内容も男女別のシングルスを行い、より多くの方に楽しんでもらえるようレベルを4つに分け試合を行った。それぞれの階級の上位者には表彰を行うなどして競技意欲を高めた。

今大会の参加者の方々からは楽しく、また白熱したプレーを多く見受けられ、皆様に技術向上、更には交流の場を提供することができた。

今後はテニスというスポーツを通じて本団体を更なる地域の活性化に少しでも力になれるよう尽力していきたい。

写真 :



(2) 体育会柔道部主催「柔道教室」

団体名 : 体育会柔道部

事業名 : 広島大学体育会柔道部 柔道教室

開催日時 : 平成 26 年 2 月 11 日 (水)

開催場所 : 豊栄中学校 (柔道場)

参加者 : 東広島市内の幼稚園児、小学生

参加人数 (相手先) : 約 70 人

参加人数 (本学学生) : 15 人

内容 : 東広島市内の道場に所属する幼稚園児、小学生を対象に、広島大学体育会柔道部員が中心となって、柔道教室を開催した。

内容は、幼稚園児や小学校低学年生は特別メニューで、小学生上学年には立ち技、寝技における基本動作を主将を中心に全体指導で行い、次に得意技別や習熟度別に分かれて柔道部員全員が分担し個別指導を行った。そして最後に、大学生を相手に合同稽古を行い、約 2 時間半の教室を終えた。

(指導風景写真)



(3) 体育会サッカー部・女子サッカー部主催「サッカー教室」

団体名 : 広島大学体育会サッカー部、広島大学体育会女子サッカー部

事業名 : サッカー教室

開催日時 : 平成 26 年 6 月 9 日・9 月 8 日・10 月 27 日・2015 年 2 月 23 日

開催場所 : 広島大学南グラウンド

参加者 : 東広島地区幼稚園児～小学生

参加人数 (相手先) : 延べ 105 名

参加人数 (本学学生) : 18 名

内容 : このサッカー教室は、本学の体育会サッカー部男女が共同で企画から準備、運営、指導等を行っており、地域との交流はもとより、本学生が社会に出ていくための鍛練の場として非常に役立っている。これまでは怪我の予防や防止にも気を付けており、今のところ擦り傷などを除いたら、大きな怪我人は出ていない。平成 24 年度より、初心者向けのエンジョイコースと、小学校中・高学年向けのスキルアップコースの 2 コースを設置し、参加者のレベルに応じたトレーニングを提供できるよう工夫している。

写真 :



(4) 体育会陸上競技部主催「小学生のための陸上競技教室」

団体名 : 広島大学体育会陸上競技部

事業名 : 小学生のための陸上競技教室

開催日時 : 平成 26 年 9 月 8 日～10 月 15 日の 10 日, 毎回 16 : 00～18 : 00

開催場所 : 東広島市立三ツ城小学校

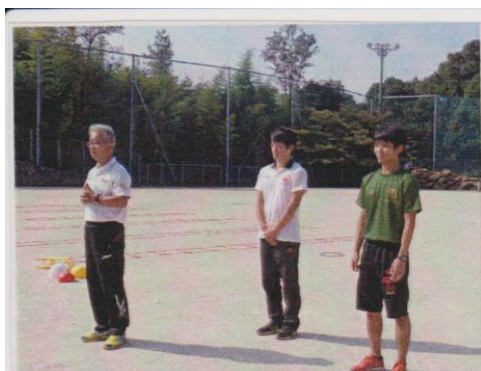
参加者 (相手先) : 東広島市内在住小学生 30 人

参加人数 (本学学生) : 3 人

内容 : 例 1) ジョギング 400m
体操・ストレッチ
ネコとネズミ×10 回
ミニハードル 10 台×5 種目
40m エンドレスリレー(各自 5 回)

例 2) ジョギング 400m
体操・ストレッチ
ケイドロ(警察と泥棒)15 分程度
ラダートレーニング 10 種目×各 2 回
50m 競走×2 回
50m ハードル走×2～3 回

写真 :



(5) 体育会柔道部主催「第8回フェニックス杯柔道大会」

主 催：広島大学体育会柔道部

日 時：平成26年11月3日

場 所：広島大学西体育館柔道場・東広島運動公園体育館武道場

参加者：約300名

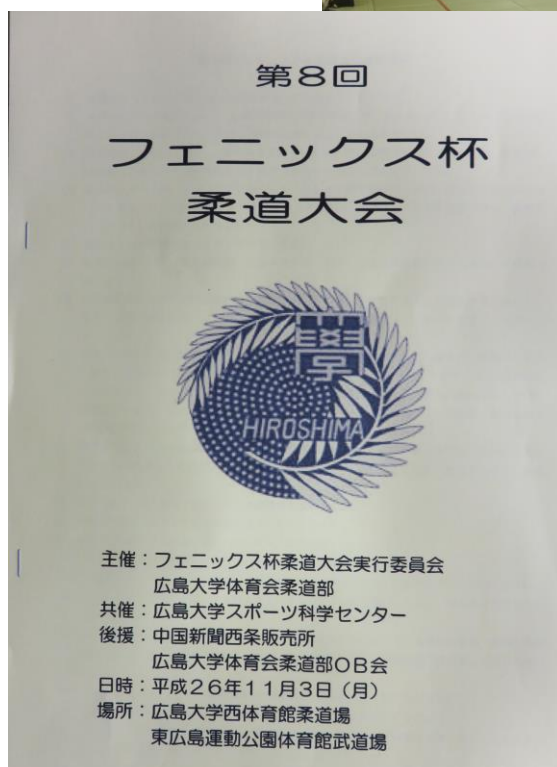
概 要：広島大学体育会柔道部主催のもと、広島県内はもとより、中国、四国、近畿から30校、約300人の男女中学生が集い行われる柔道大会。

広島大学柔道部と東広島市内の道場、中学柔道部の交流、強化、発展を目指しスタートした事業で、大会の準備から試合の審判、運営まで広島大学柔道部員と中学柔道部員、教員、保護者が行っている。

本大会に出場した選手の中には、日本代表選手になった者もあり、柔道の普及や選手発掘の一端も担っている。

大きな怪我人もなく、大盛況のうちに大会を終えることができた。

(会場写真及びパンフレット)



(6) 体育会バレーボール部主催「第18回もみじ杯バレーボール大会」

主催 : 広島大学体育会バレーボール部
広島大学スポーツ科学センター
後援 : 東広島市教育委員会
東広島市小学生バレーボール連盟
東広島市バレーボール協会
協賛 : ミズノ株式会社
開催日時 : 平成26年11月3日(祝・月) 8:30~17:00
開催場所 : 広島大学北体育館・西体育館
世話人 : 橋原 孝博(スポーツ科学センター研究員)

参加チーム【女子の部】19チーム

高屋西バレーボールスポーツ少年団 下黒瀬バレーボールスポーツ少年団
川上スポーツ少年団 東西条スポーツ少年団
寺西バレーボールスポーツ少年団 西条JVC 高屋東スポーツ少年団
小谷スポーツ少年団 高美が丘バレーボールスポーツ少年団
安芸入野スポーツ少年団 御園宇スポーツ教室 三ツ城スポーツ少年団
上黒瀬JVC 西志和スポーツ少年団バレーボール部
八本松バレーボールクラブ 板城クラブジュニアスポーツ少年団
三永ジュニアバレーボールクラブ 造賀スポーツ少年団
中黒瀬バレーボールスポーツ少年団

【男子の部】6チーム

八本松バレーボールクラブ 小谷スポーツ少年団
久芳バレーボールスポーツ少年団 西志和スポーツ少年団
川上スポーツ少年団 寺西バレーボールスポーツ少年団

試合結果

【女子の部】

優勝 八本松バレーボールクラブ
準優勝 高屋西バレーボールスポーツ少年団
第3位 三ツ城スポーツ少年団
第3位 上黒瀬バレーボールスポーツ少年団

【男子の部】

優勝 小谷スポーツ少年団
準優勝 久芳スポーツ少年団



(7) 体育会バスケットボール部主催「フェニックスバスケットボールクリニック」

団体名 : バスケットボール部

事業名 : フェニックスバスケットボールクリニック

開催日時 : 平成 27 年 1 月 17 日 [女子] 13 : 00~15 : 00 [男子] 14 : 00~16 : 00

開催場所 : 西条中学校

参加者 : 約 70 名

参加人数 (相手先) : 33 名

参加人数 (本学学生) : 35 名

内容 :

当初 8/9~11 にかけて、地域の高校生を集めてフェニックスカップ・バスケットボールを実施する計画で準備を進めていましたが、台風 11 号の襲来で日程を縮小し実施することにしていました。しかしながら、教養科目のカヌー実践で西体育館を使用したいとの申し出があり、台風の状況も不確定だったので、体育館利用は諦め、この大会は中止にしました。すでに、支援を受けていたので、地域の中学生にもともと継続的に実施しているクリニックを開催しこれに代えることにしました。クリニックに参加した男女の中学生は、大学生の指導のもと、しっかり基礎技能を練習し充実した時間をすごしました。

写真 :



(8) 体育会フットサル部「フットサル教室」

団体名 : 広島大学体育会フットサル部 F・DO
事業名 : 東広島市の小学生を対象としたフットサル教室
開催日時 : 平成 27 年 2 月 14 日 (土) 16:30-18:30
開催場所 : 広島大学東広島キャンパス西体育館アリーナ
参加者 : 小学生およびその保護者, フットサル部部員
参加人数 (相手先) : 5 人
参加人数 (本学学生) : 14 人
内容 : ①しっぽ (ビブス) 取りゲーム
②ボール出し
③ドリブル, パスの練習
④ゲーム (3 チームリーグ戦)
写真 : 4 枚 (練習風景 3 枚, 集合写真 1 枚)



V. 社会連携部門

1. 公開講座「スポーツを通じた健康学セミナー」

主 催：スポーツ科学センター

日 時：平成 26 年 9 月 30 日（火）～10 月 21 日（火） 13:45～16:15

場 所：広島大学西体育館ほか

世話人：長谷川 博（スポーツ科学センター研究員）

参加者：平均約 30 名

概 要：

テ ー マ : スポーツを通じた健康学セミナー			
概 要	<p>スポーツを行うことは、健康の維持・増進にとって重要です。しかし、その効果を十分に引き出すためには、スポーツの役割について正しく理解する必要があります。</p> <p>本講座では、スポーツ科学に関する講義およびスポーツの実践を通して、健康的な生活を営むための知識を深めることを目的としました。</p>		
時 間	13 : 45～16 : 15		
会 場	広島大学西体育館		
対 象	38 名 一般		
1 回	<table border="1"> <tr> <td>「ガイドンス・からだチェック①」 (講義・実技) 「バウンドテニス」(実技)</td> <td>総合科学研究科 准教授 長谷川 博 総合科学研究科 准教授 磨井 祥夫</td> </tr> </table> <p>公開講座の趣旨や日程について説明しました。水分摂取の重要性や熱中症予防について解説しました。また、体重・体脂肪計を使用してからだをスキャンし、自分のからだの状態をチェックしました。実技では、バウンドテニスを行いました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>9/30 (火)</p>  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	「ガイドンス・からだチェック①」 (講義・実技) 「バウンドテニス」(実技)	総合科学研究科 准教授 長谷川 博 総合科学研究科 准教授 磨井 祥夫
「ガイドンス・からだチェック①」 (講義・実技) 「バウンドテニス」(実技)	総合科学研究科 准教授 長谷川 博 総合科学研究科 准教授 磨井 祥夫		

<p>2回</p> <p>10/7 (火)</p>	<p>「応急処置とリハビリテーション」(講義) 「機能的な身体作り」(実技)</p>	<p>非常勤講師 米澤 和洋 非常勤講師 米澤 和洋</p> <p>応急処置とリハビリテーションの必要な意味を解説しました。実技では、身体を上手に動かすことを目的としてさまざまなエクササイズを行いました。</p>    
<p>3回</p> <p>10/14 (火)</p>	<p>「ウォーキングを科学しよう」(講義) 「オリエンテーリング」(実技)</p>	<p>非常勤講師 小田 典子 総合科学研究科 教授 橋原 孝博</p> <p>ウォーキングの「歩幅と速度」「主観的運動強度と心拍数」の関係について測定を行い自分自身の歩き方を分析しました。実技では、大学構内を利用して、オリエンテーリングを行いました。</p>    

4回	<p>「健康寿命を延ばす秘訣」(講義) 「からだチェック②・まとめ」(講義・実技)</p>	<p>総合科学研究科 教授 山崎 昌廣 総合科学研究科 准教授 長谷川 博</p>
10/21 (火)	<p>運動することが健康寿命にどのように関与しているかについて講義しました。実技では体重・体脂肪計を使用してからだをスキャンし、第1回目の値と比較しました。 31名の受講者に修了証書を授与しました。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;">     </div>	

2. 公開講座「家でもできる健康体操」

第1回

主催：スポーツ科学センター

日時：平成26年6月27日（金）10：00～12：00

場所：東広島市八本松南集会所

講師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

テーマ：家でもできる健康体操

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：36人

内容：

1. 高齢者における転倒・骨折予防の重要性
2. 自分の筋力を評価する
3. ちょっとおすすめ～スローステップ
4. 健康体操の実践（セルフ・コンディショニング）



スローステップ



セルフ・コンディショニング

第2回

主催：スポーツ科学センター

日時：平成26年7月25日（金）19：00～20：30

場所：広島市安佐北区白木上市一区自治会集会所

講師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

テーマ：家でもできる健康体操

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：25人

内容：

1. 高齢者における転倒・骨折予防の重要性
2. 転倒のメカニズムとそれに伴う障害
3. 家でもできる健康体操・運動の紹介と実践



第3回

主催：スポーツ科学センター

日時：平成26年8月20日（水）13：30～15：30

場所：広島市東区広島東地域交流センター「あいあいプラザ」

講師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

テーマ：家でもできる健康体操

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：7人

内容：

1. 高齢者における転倒・骨折予防の重要性
2. 転倒のメカニズムとそれに伴う障害
3. 家でもできる健康体操・運動の紹介と実践



腰痛体操



スローステップ

第4回

主催：スポーツ科学センター

日時：平成26年9月12日（金）14：00～15：00

場所：広島南消防署宇品出張所

講師：上田毅（広島大学大学院教育学研究科）

テーマ：元気に働き続けるための健康づくり

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：62人

内容：

1. 老化の道はどこに通じるのか
2. 転倒の原因は筋力低下
3. 高齢者の身体的な加齢変化
4. 高齢化における身体的特徴の基礎知識
5. 家でもできる簡単な筋トレ
6. 転倒等による災害防止のための健康体操



第5回

主催：スポーツ科学センター

日時：平成26年10月31日（金）10：00～12：00

場所：東広島市八本松南集会所

講師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

テーマ：家でもできる健康体操

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：37人

内容：

1. 高齢者における転倒・骨折予防の重要性
2. 自分の筋力を評価する
3. ちょっとおすすめ～ノルディックウォーキング
4. 健康体操の実践（セルフ・コンディショニング）



ノルディックウォーキング



セルフ・コンディショニング

第6回

主催：スポーツ科学センター

日時：平成26年8月20日（水）13：30～15：30

場所：広島市東区広島東地域交流センター「あいあいプラザ」

講師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

テーマ：家でもできる健康体操

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：18人

内容：

1. 高齢者における転倒・骨折予防の重要性
2. ノルディックウォーキングの紹介と実践



ボールを使ったゲーム



ノルディックウォーキング

3. 中高年のランニング教室

主 催：ランニング学会

共 催：スポーツ科学センター

日 時：平成 26 年 6 月 7 日（土）～平成 27 年 3 月 7 日（土） 各日とも 10：00～12：00

場 所：広島大学陸上競技場及び周辺コース

講 師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）

和田正信（広島大学大学院総合科学研究科）

齊藤一彦（広島大学大学院教育学研究科）

世話人：東川安雄・和田正信（スポーツ科学センター研究員）

参加者：65 人

内容：

1. ランニング教室の趣旨説明
2. ランニングの基礎理論と実技
3. コース別練習（各日とも 4 グループに分かれ、参加者の経験や目標にあった練習を行った）
4. 第 34 回ひろしま国際平和マラソンへの参加
5. 第 2 回広島大学フェニックスリレーマラソンへの参加 等

写真：



ケガの対処法の勉強会



第 34 回ひろしま国際平和マラソン

4. 小学生陸上競技出前講座

主 催：広島陸上競技協会
 共 催：スポーツ科学センター
 日 時：平成 26 年 5 月 1 日（木）～11 月 22 日（土）
 場 所：広島県内小学校及び陸上競技場（17 会場）
 講 師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）
 広島大学体育会陸上競技部員
 世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）
 参加者：2632 名

内 容：

1. 基本の運動（運動遊び）
2. 短距離・跳躍（走り幅跳び又は走り高跳び）・投運動から選択して練習
3. 会場別内容等

期日	場 所	内 容	参加人数
5/1	志和堀小学校	基本の運動短距離・ハードル走・跳躍	56
5/26	志和堀小学校	リレー	20
6/14	庄原市陸上競技協会	短距離・跳躍・長距離・ハードル	60
7/27	尾道市立御調西小学校	短距離・跳躍	25
8/17	全国大会練習会	短距離、跳躍、リレー	24
8/18	尾道市陸上競技協会	基本の運動・跳躍運動	111
9/3	廿日市市立宮園小学校	短距離走	141
9/9	竹原市立大乘小学校	基本の運動・短距離・ハードル走・跳躍	89
9/22	広島市立黄金山小学校	ハードル走	54
10/11	大竹市陸上競技協会	基本運動	50
10/16	広島市立日浦小学校	基本の運動	96
10/17	呉市立両城小学校	基本運動・短距離・投運動	125
10/30	広島市立狩小川小学校	投運動・ハードル・跳躍	203
11/6	安芸高田市向原小学校	中・長距離の走り方、練習法	159
11/12	広島市立深川小学校	基本運動	79
11/19	広島市小学校体育連盟	基本の運動・短距離・ハードル走・跳躍	1300
11/22	織田幹雄スポーツ振興会	ハードル走ソフトボール投げ	40

6. JAAF 公認ジュニアコーチ講習会

主 催：日本陸上競技連盟

共 催：スポーツ科学センター

日 時：平成 27 年 1 月 24 日（土）・25 日（日）、平成 27 年 2 月 7 日（土）・8 日（日）

場 所：広島大学教育学部講義室及び陸上競技場

講 師：東川安雄（広島大学大学院教育学研究科）
 和田正信（広島大学大学院総合科学研究科）
 広島陸上競技協会強化委員等

世話人：東川安雄（スポーツ科学センター研究員）

参加者：24 人

内 容：

区分	カリキュラム内容	
1.種目の特性に応じた 基礎理論	①	発育発達段階を踏まえた競技者の育成
	②	指導における各種理論
	③	陸上競技の主なルール
	④	部活動の運営と地域クラブ
2.実技指導法	①	陸上競技の種目別指導
3.実技指導演習	①	陸上競技の種目別指導の方法

写真：



《諸会議》

I. スポーツ科学センター運営委員会・教員会・部門長会議

会議名	期 日	場 所	議 題
運営委員会	平成 26 年 5 月 30 日 (金)	メール 審議	・平成 25 年度事業報告及び平成 26 年度事業 計画・予算案について
	平成 27 年 2 月 3 日 (火)	メール 審議	・平成 27 年度スポーツ科学センター部門長 及び研究員について
教員会	平成 26 年 5 月 27 日 (火)	教育学 研究科 B220	・平成 26 年度センター研究員について ・平成 25 年度事業報告及び決算について ・平成 26 年度事業計画及び予算案について ・その他
部門長会議	随時	メール 審議	・平成 26 年度事業計画及び予算案について ・センターの業務について

《組 織》

I. スポーツ科学センター研究員

部 門	役 職	名 前	部 局	職 名
	センター長	東川 安雄	教育学研究科	教授
	副センター長	関矢 寛史	総合科学研究科	教授
教 育	部門長	磨井 祥夫	総合科学研究科	准教授
	研究員	黒川 隆志	教育学研究科	教授
	〃	長谷川 博	総合科学研究科	准教授
	〃	岩田昌太郎	教育学研究科	准教授
研 究	部門長	関矢 寛史	総合科学研究科	教授
	研究員	山崎 昌廣	総合科学研究科	教授
	〃	加藤 荘志	国際協力研究科	助教
	〃	大塚 道太	教育学研究科	助教
課外活動	部門長	出口 達也	教育学研究科	教授
	研究員	橋原 孝博	総合科学研究科	教授
	〃	松尾 千秋	教育学研究科	教授
	〃	沖原 謙	教育学研究科	准教授
	〃	木庭 康樹	総合科学研究科	助教
社会連携	部門長	上田 毅	教育学研究科	教授
	研究員	和田 正信	総合科学研究科	教授
	〃	東川 安雄	教育学研究科	教授
	〃	齊藤 一彦	教育学研究科	准教授
	〃	明石 啓太	教育学研究科	助手

(平成 26 年 6 月 1 日現在)